

社会科4年「ごみの処理と利用」

浜松市立中瀬小学校 無州 潤

1 はじめに

見方・考え方を働かせ、学びを深めるための手立てとして、単元の最初と最後においてダイヤモンドチャートを活用し、ごみを処理する際に大切だと思う事柄を自分で順位付けした。ダイヤモンドチャートを活用することで、視覚的に大切だと思う事柄が分かりやすくなり、何を重要と考えているか表しやすいと考えた。また、問いや思いを共有する手立てとして、ジグソー学習を取り入れた。ジグソー学習の話し合い活動では、エキスパート班とジグソー班の2回に分けてグループでの話し合い活動を行い、その後クロストークとして全体での話し合いを行った。ジグソー学習を取り入れることで協同的に学習が進められ、大切な事柄に気付くことができ、自分の意見を話したり、友達の意見を取り入れたりしやすいと考えた。

2 実践

(1) ダイヤモンドチャートを活用した実践

ダイヤモンドチャートを活用した実践では、子供から出たキーワードと教師が意図的に出したキーワードを9つ出した。「分別」「収集」「清掃工場」「処分場」「リサイクル」「リデュース」「リユース」「ごみ箱」「エコバック」である。最初の順位付けでは、多くの子供が「清掃工場」をごみの処理をする際に一番大切だと考えた。しかし、子供たちが知らない言葉もあり、A男からは「言葉の意味が分からないから順位を付けにくい。どんな意味か調べたい」など、学習に意欲的に取り組もうとする姿勢も見られた。また、単元の最後にも同じようにダイヤモンドチャートを活用する授業を行った。ごみ処理の仕方について学び、(2)で述べる話し合い活動を行った後、ダイヤモンドチャートを行うことで、単元の最初に行ったものとは大きく異なる結果となった。順位付けに困る子供が多く、A女からは、「学習してどれも大切だということが分かった。順位を決めるのは難しい。全部1位にしたい」という意見も出た。ごみの処理において、今回のキーワードである「不必要な物はなく、それぞれが環境を配慮した大切なものである」という単元の最後に気付いてほしかった考えに多くの子供がたどりついた。ダイヤモンドチャートを活用することで、最初の自分の考えと比較し、深めることができた。

(2) ジグソー学習を取り入れた話し合い活動の実践

同じキーワードを選んだ子供だけ（エキスパート班）で話し合い活動を行い、そこで深まった知識を別のキーワードを選んだ班（ジグソー班）に分かれ、自分をもっとも大切だと思うものについて伝え合った。エキスパート班での話し合い活動では、自分の調べたものに加え、班の子供たちから自分が調べきれなかった部分を教えてもらい、さらに知識が深まった。またジグソー班では、他のキーワードの大切さについてお互いに気付くことができた。その後、学級全体で意見を交換し（クロストーク）、B男からは、「話し合うことで他のキーワードも大切だと気付いた」、B女からは、「どれも大切だと分かった。全部のことをしっかり行えば、ごみ処理はスムーズに行える」などの意見が出た。話し合い後の振り返り活動の場では、自身のごみ処理の仕方について考える子供もいて、「ごみ処理をする際には、自らも廃棄物の適切な処理や再利用に協力していく態度を育てる」という単元全体の目標の1つにも近づいた。

3 成果と課題

成果として、単元の最初からダイヤモンドチャートを活用することで、キーワードを常に意識して学習に取り組むことができた。また、ダイヤモンドチャートをホワイトボードにはり、いつでも順番を入れ替えやすいようにしたことで、毎時間の始めや終わりに子供たちが自主的に操作し、考えている場面が見られた。また、ジグソー学習を取り入れることで、自分の考えを深めたり、分かりやすく伝えたりすることができた。

課題として、ダイヤモンドチャートに教師が固執してしまい、キーワードを中心とした学習になってしまったことがあげられる。また、ジグソー学習のエキスパート班での学習では、1人が自分の調べたことや考えたことを発表し、他の子供は聞き手に専念するような一方的な話し合い活動になってしまった班もあった。1人1人に発表時間を設定したり、考えを発表することが困難な子供に助言をしたりするなど、手立てをとっておく必要があったと思われる。また、ジグソー班の学習では、自分の順位付けや考えた理由を大切にしすぎるあまり、他の子供の考えを素直に聞き入れず、考えを深めることができなかった子供がいた。順位付けにこだわらず、PMIシートを活用してそれぞれの長所や欠点を見つけ、話し合いをさせる活動も取り入れることで、考えが深まり、話し合いも充実したものになったと考えられる。